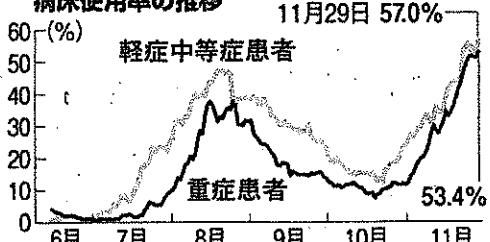


コロナ余波 がん病棟一部閉鎖

大阪府内の重症患者と軽症中等症患者の病床使用率の推移 11月29日 57.0%



新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、大阪市立総合医療センター（大阪市都島区）が、がんなどを患う15～30代半ばのAYA（思春期と若年成人）世代の専用病棟を12月上旬に一時的に閉鎖することがわかつた。新型コロナ患者の治療に当たる看護師が不足し、専用病棟の看護師で補うためだという。大阪府の感染状況が最も深刻な「ステージ4（感染爆発段階）」に迫る中、一般患者の医療の質の確保にも影響が出ている。▼30面=職員危機感

同センターの専用病棟は

018年4月に新設され、現在38床に約20人が入院し、20人程度の看護師がつく。同年代の患者同士で悩

むを共有し合うなどして、闘病中の孤立を防ぐほか、ソーシャルワーカーが経済的な問題の相談に乗るなど、治療だけでなく、社会的、心理的なサポートにも力を入れてきた。

しかし、最近の新型コロナ感染者の急増で医療体制が逼迫。同センターを運営する大阪市民病院機構によると、重症者を診る同センターや中等症専門病院の市立十三市民病院（大阪市淀川区）で、新型コロナ病床を拡大することになったが

、専用病棟を一時閉鎖し、その看護師をあてることが決まったという。26日に決まったといふ。専用病棟による看護師が足りず、AYA世代専用病棟を一時閉鎖し、その看護師をあてることが決まっている。専用病棟での治療にかかる職員は「全国的に

も数少ない貴重な病棟。コロナ対応が必要なのはわかるが、こうした専門的なケアができる場所が削られるのはおかしい」と言う。

府は新型コロナ対応の重症病床を206床確保するが、実際に運用できる病床は143床にとどまる。

同センターでは、新型コロナ対応による看護師不足のために4月にがんの緩和ケアや整形外科を中心とする病棟を、8月には婦人科病棟を同様に閉鎖していく。機構の担当者は「あくまで一時的な対応として患者さんに理解してもらいたい」と話す。

同機構によると、専用病棟の患者は全てセンター内の別病棟に移して治療を続ける。専用病棟をいつ再開するかは決まっていないという。専用病棟での治療にかかる職員は「全国的に

厚生労働省の担当者は「新型コロナと一般医療のバランスをみて病床の確保をお願いしております。最終的には都道府県などで判断してもいいことになる」としている。

AYA世代

英語の「Adolescent & Young Adult」（思春期と若年成人）の頭文字をとったもので、国立がん研究センターでは15歳から39歳までと定義している。

小児から成人までにかかる様々ながんを発症する可能性がある一方、治療中に進学や就職、結婚、出産など多くのライフステージの変化に直面する世代で、近年、専門家からきめ細かな支援の必要性が指摘されている。

同センターによると、日本で1年間にがんの診断を受ける人のうち、およそ2%の2万人がAYA世代とされる。

12/1 朝日

「AYA世代　また難民に」

がん病棟閉鎖、職員に危機感

AYA世代へのきめ細かなケアが期待された大阪市立総合医療センター（大阪市都島区）の専用病棟が一時的に閉鎖される。内部から反発の声も聞かれた。

AYA世代は様々ながんの発症リスクを抱え、診療には小児および成人専門の医師、看護師など、多職種の連携が重要とされる。一方、ライフステージが大き

ない」。同センターのある職員は閉鎖に危機感をあらわにした。

AYA世代は2%程度と患者数が少なく、成人が中心の入院先で孤立するなどの懼れが指摘されてきた。

AYA世代へのきめ細かなケアが期待された大阪市立総合医療センター（大阪市都島区）の専用病棟が一時的に閉鎖される。内部から反発の声も聞かれた。

▼1面参照

「またAYA世代の患者が『医療難民』になりかねない」と懸念する。

全国がん患者団体連合会の松本陽子副理事長は、「大阪の現状を考えると、病院にどうしても苦渋の決断だったと思う。医療はコロナ対応とそれ以外で切り離

く変化する時期とも重なるが、日本で1年間にがんの診断を受ける人のうちAYA世代は2%程度と患者数

が少なく、成人が中心の入院先で孤立するなどの懼れが指摘されてきた。

そこで同センターに2年前に新設されたのが今回の

べきだ」と懸念する。全国がん患者団体連合会の松本陽子副理事長は、「大阪の現状を考えると、病院にどうしても苦渋の決断だったと思う。医療はコロナ対応とそれ以外で切り離

して考えられるものではない。他の病気を治療している患者が不安を抱えていることに目をつけた対策を取つてほしい」と指摘する。（山中由理、堀之内健史、月館彩子）

して考えられるものではない。他の病気を治療している患者が不安を抱えていることに目をつけた対策を取つてほしい」と指摘する。（山中由理、堀之内健史、月館彩子）